

お客さんが買い物をしたくなるパンフレットを作ろう

本単元で育成する「21世紀型スキル」

◎表現力・コミュニケーション力

1 単元設定の理由

【生徒の実態】しまなみ学級5名（9年男子1名、9年女子1名、8年男子2名、7年女子1名）

①本単元にかかわる生徒の実態

本学級の生徒は、全体的に人との関わりを楽しむことができ、親しい友達や教師に自分がしたことや感じたことを話すことが好きである。しかし、活用できる語彙が少なく、自分の体験した状況や考えを正確に相手に伝えられないことがある。

本単元の活動を支える生徒の実態は、次のとおりである。

	言語面（書く・読む等）	心理面
生徒A （9年男子）	小学4年生までの漢字は定着している。前後の繋がりを考えた短文を作成できる。短い文章であれば資料として活用ができる。	クラスをまとめようという意識が強く、下級生に指示を出すことができる。課題に対して、とても時間をかけて考える。
生徒B （9年女子）	小学6年生までの漢字は定着している。既習の漢字や慣用句を多く用いて短文を作成できる。短文であれば要旨をつかむことができる。	見通しが持てないことに対して不安を感じやすい。パターン化されていることについてはスムーズに行動できる。
生徒C （8年男子）	小学3年生までの漢字は定着している。枠内に収まるように文を書くことが困難である。ルビが振ってある文章を読むことができる。	集中するまで時間がかかるため環境の整備が欠かせない。自分の意見をしっかりとっており、人に伝えることができる。
生徒D （8年男子）	小学3年生までの漢字は定着している。短文作成時は誤字脱字が多い。穴埋め問題であれば本から必要な情報を探して書くことができる。	どの教科も真面目に取り組む。自分の思い通りにならなかったときに気持ちが乱れることがある。
生徒E （7年女子）	小学3年生までの漢字は定着している。見本があれば丁寧に書くことができる。易しい文章であれば要点を掴むことができる。	目的やゴールが明確な課題については、意欲的に取り組むことができる。自分の意見を求められると固まることもある。

②学校図書館活用にかかわる生徒の実態

興味のある本は読むが、本を用いて調べる経験は乏しく、文章によって新たな語彙を身に付ける習慣はあまりついていない。インターネットを用いて、必要な情報を得ることができる。

生徒A（9年男子）	本を読む経験が少ない。
生徒B（9年女子）	本を借りて読むことが好きで、日常的に小説や怖い話など興味のある本を選んで読む。
生徒C（8年男子）	生物や海に関する図鑑を好んで読む。スポーツの攻略本を参考にすることもある。
生徒D（8年男子）	本を借りて読むことが好きで、アニメの本を借りて読書を楽しんでいる。
生徒E（7年女子）	本を読む経験が少ない。



【単元について】

本単元は、以下の学習指導要領の内容を受けて設定した。

生徒A（9年男子）・生徒B（9年女子）	生徒C（8年男子）・生徒D（8年男子）・生徒E（7年女子）
特別支援学校学習指導要領「国語科」2段階「B書くこと」ア相手や目的を意識して、見聞きしたことや経験したことの中から書くことを選び、伝えたいことを明確にすること。	特別支援学校学習指導要領「国語科」1段階「B書くこと」ア見聞きしたことや経験したことの中から、伝えたい事柄を選び、書く内容をだまかにまとめること。

自分が作った野菜や花を購入する客を意識することで、語彙を増やし表現力を高め、伝える力を育てることができる。また、学校図書館を情報センターとして利用することで、言葉の習得の範囲を自ら広げる方法を理解することにも繋がるものである。以上のことから、本校が目指す「21世紀型スキル」の表現力やコミュニケーション力を育成するのに適した単元といえる。

【指導に当たって】

単元全体を通して、「どんな言葉を選んで使えば、お客さんは買い物がしたくなるだろうか」という問いを設定する。また、本単元での成果物が、学級の畑で栽培した野菜や花を文化祭で販売する際に必要であることを伝え、相手意識を明確にもたせ、活動の意欲が高まるようにする。

生徒A（9年男子） 生徒B（9年女子）	<ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットの見本を用意し、活動の見通しをもたせ、どのような手順でパンフレットを作成すべきか考えさせる。 ・竹原市立書院図書館の蔵書についても検索できることを理解させ、必要に応じ調べ、本を取り寄せる。 ・本や雑誌、インターネットから購買意欲が高まる情報やキャッチコピーを選び、商品を魅力的に感じさせる文章作成に積極的に活用させる。 ・下級生とグループを組み、収集した言葉の分類・整理に主体的に取り組む。 ・自分だけの意見ではなく、クラスの意見を取り入れて文章作成をする。 ・パンフレット全体のレイアウトについて、クラス全体の意見を吸い上げ、まとめさせる。
生徒C（8年男子） 生徒D（8年男子） 生徒E（7年女子）	<ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットの見本を用意し、活動の見通しをもたせる。 ・Chromebook を使った活動を取り入れることで、作文に対する苦手意識を和らげる。 ・蔵書検索システム「カーリル」を用いて、食感や香りの表現に関連する図書を検索する方法を指導する。 ・本や雑誌、インターネットから購買意欲が高まる情報やキャッチコピーを選び、商品を魅力的に感じさせる文章作成に取り入れさせる。 ・上級生とグループを組み、収集した言葉の分類・整理に取り組む。 ・パンフレット全体のレイアウトについて、意見交流を活発に行う。

<活動のチーム編成>

Aチーム…A（9年男子）C（8年男子） さつまいも・玄米・ほうれん草を担当

Bチーム…B（9年女子）D（8年男子）E（7年女子） トウガラシ・リーフレタス・パンジーを担当



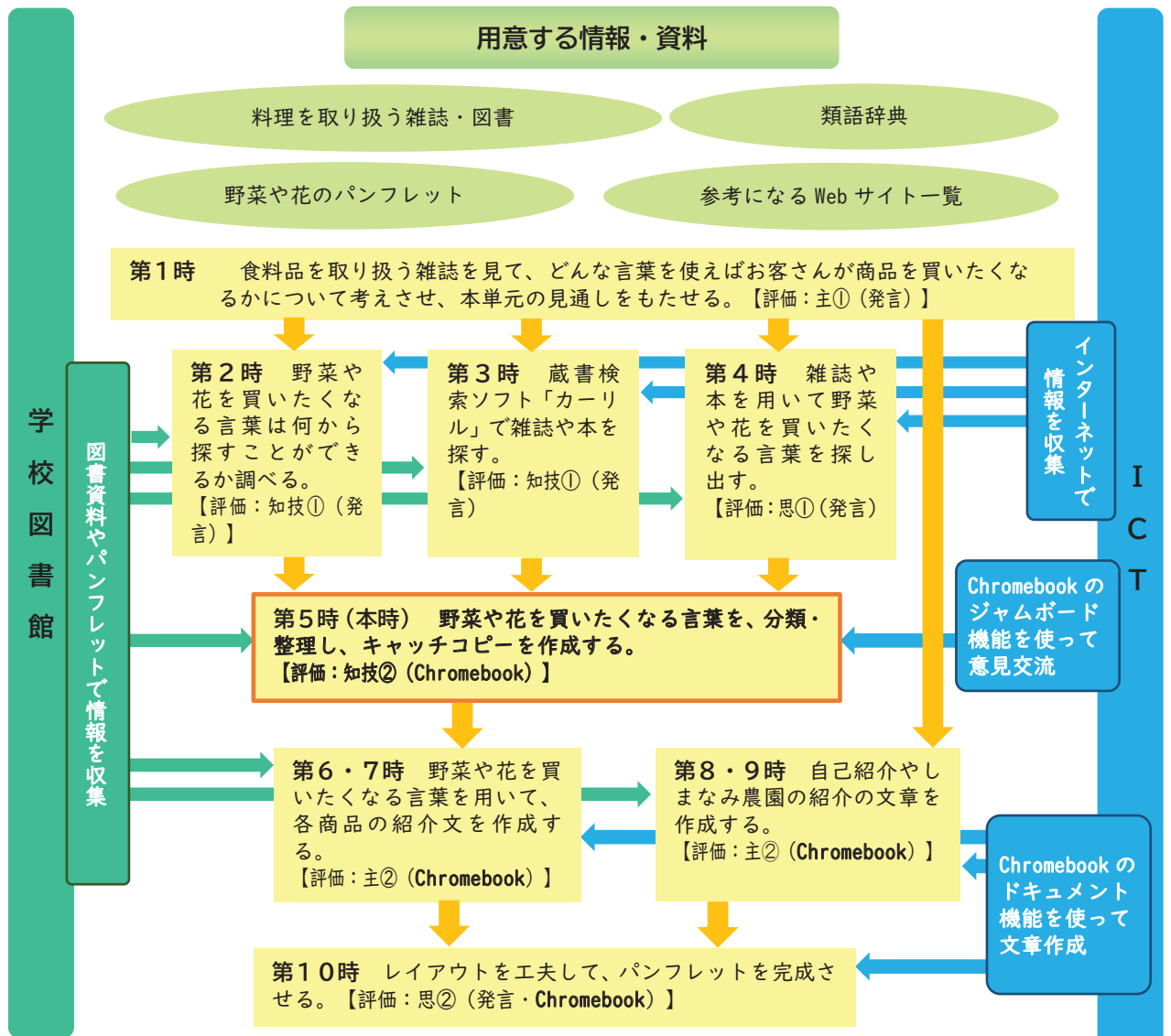
【単元の目標】

生徒A（9年男子） 生徒B（9年女子）	<ul style="list-style-type: none"> ○図書やインターネットなどを用いて、購買意欲が高まるキャッチコピーや情報を調べ、文中で使えるように分類・整理できる。 【知識及び技能】 ○調べた言葉の意味や使われる状況を理解した上で、商品の販売にふさわしい言葉を選び、パンフレットの文章を書こうとしている。 【思考力・判断力・表現力等】 ○購買意欲を高めるキャッチコピーや情報を使用することで、客に野菜や花の価値を伝えることができることに気づき、積極的に使おうとしている。 【学びに向かう力、人間性等】
生徒C（8年男子） 生徒D（8年男子） 生徒E（7年女子）	<ul style="list-style-type: none"> ○図書やインターネットなどを用いて、購買意欲が高まるキャッチコピーや情報を調べ、様々な表現があることに気付くことができる。 【知識及び技能】 ○調べた言葉の意味や使われる状況を理解した上で、商品の販売にふさわしい言葉を選び、例文を参考にパンフレットの文章を書こうとしている。 【思考力、判断力、表現力等】 ○購買意欲を高めるキャッチコピーや情報を使用することで、客に野菜や花の価値を伝えることができることに気づき、積極的に使おうとしている。 【学びに向かう力、人間性等】

2 単元構想図（指導と評価の計画）

単元を貫く問い

どんな言葉を選んで使えば、お客さんは買い物したくなるだろうか。



評価規準

9年

【知識・技能】

- ①図書やインターネットなどを用いて、購買意欲が高まるキャッチコピーや情報を調べることができる。
- ②調べた言葉を文中で使えるように分類・整理できる

【思考・判断・表現】

- ①調べた言葉の意味や使われる状況を理解できる。
- ②商品の販売にふさわしい言葉を選び、商品の紹介文を書くことができる。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ①購買意欲を高めるキャッチコピーや情報を使用することで、客に商品の価値を伝えられることに気付くことができる。
- ②購買意欲を高める言葉を積極的に使おうとしている。

8年
7年

【知識・技能】

- ①図書やインターネットなどを用いて、購買意欲が高まるキャッチコピーや情報を調べることができる。
- ②購買意欲が高まる言葉には様々な表現があることに気付くことができる。

【思考・判断・表現】

- ①調べた言葉の意味や使われる状況を理解できる。
- ②商品の販売にふさわしい言葉を選び、例文を参考に商品の紹介文を書こうとしている。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ①購買意欲を高めるキャッチコピーや情報を使用することで、客に商品の価値を伝えられることに気付くことができる。
- ②購買意欲を高める言葉を積極的に使おうとしている。

3 本時の学習（本時5／10時）

(1) 本時の目標

A（9年男子）	○購買意欲が高まる言い回しや情報を調べ、メンバーの意見を参考にしながら分類・整理し、キャッチコピーを作成できる。【知識及び技能】
B（9年女子）	○購買意欲が高まる言い回しや情報を調べ、文中で使えるように正しく語意を理解して分類・整理し、キャッチコピーを作成できる。【知識及び技能】
C（8年男子）	○購買意欲が高まる言い回しや情報を調べ、様々な表現があることに気付き、分類した言葉を選んでキャッチコピーに活用しようとしている。【知識及び技能】
D（8年男子）	○購買意欲が高まる言い回しや情報を調べ、言葉を分類する過程を通して言葉の用途について理解し、キャッチコピーを作成しようとしている。【知識及び技能】
E（7年女子）	○購買意欲が高まる言い回しや情報を調べ、意見交流を通して様々な表現があることに気付き、キャッチコピー作成に活かそうとしている。【知識及び技能】

(2) 準備物

- 図書資料（事前に学校図書館・竹原市立書院図書館で借りた本や雑誌を準備しておく）
- Chromebook（クラスルームに接続しておく）

(3) 学習の展開

学習活動・指導上の留意点（○）				
1 前時を振り返る。 ○チームごとに分かれて席に座っておく。 ○商品を扱う本や雑誌、インターネットのサイトには、お客さんが商品を買いたくなるための工夫があることを振り返らせ、具体例を黒板に提示する。				
<p>お客さんが買いたくなる情報とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ①野菜や花の基本的なこと ・色 ・香り ・季節 ・形 ・食感 ②野菜や花が持っている価値 ・栄養価 ・長持ちするかどうか ③豆知識 ・花言葉 ④お客さんへのアドバイス ・どんな料理に使えるか ・どんな人に合うか 			<p>学校図書館活用のポイント 自分が活用した図書資料を手元に用意しておく。</p>	
2 本時の学習課題を確認する。 ○視覚的に本時の活動の流れを示すことで、学習の見通しをもたせる。				
<ul style="list-style-type: none"> ①めあて ②2チームに分かれて本や雑誌、インターネットの言葉を入力する ③似ている言葉同士で分ける ④分けた言葉のグループに名前を付けて発表する ⑤言葉を使って短文を作る ⑥短文を発表する ⑦振り返りをする 				
3 めあてを確認する。				
<p>お客さんが買いたくなるような言い回しや情報を整理して、キャッチコピーを作ってみよう。</p>				
4 これまで集めてきた言い回し等や情報をジャムボードに入力する。 ○前時までには、本や雑誌にある言い回し・キャッチコピーや情報に付箋を貼らせておく。 ○教員のジャムボードの画面を見本として、電子黒板に提示する。 ○インターネットで探した言い回し・キャッチコピーや情報については、クラスルームのドキュメントに整理して印刷しておく。 ○9年生がリードするようにして、チーム編成をしておく。				
A(9年男子)	B(9年女子)	C(8年男子)	D(8年男子)	E(7年女子)
○長文を入力することがあるため、短い文で入力するように伝える。	○電子黒板の入力例を参考にして入力のパターンを掴ませる。	○言葉選びに悩んでいる場合は、「この言葉が入っていると分かりやすいね」と声掛けをして促す。	○言葉選びに悩んでいる場合は「たくさん探そうことができたね」と肯定的な声掛けをして、教員と選ぶ。	○言葉選びに悩んでいる場合は、黒板に提示してある、購買意欲が高まる言葉の具体例を確認させる。

<p>5 言葉を分類して、言葉のグループごとに見出しを付ける。 ○9年生を中心に、8・7年生の意見を取り入れながら作業させる。 ○お客さんが買いたくなる言葉の具体例を参考にさせて、見出しを作らせる。 ○言葉を正しく理解するためにグループで協議したり、chromebook で意味を調べたりさせる。</p>				
A(9年男子)	B(9年女子)	C(8年男子)	D(8年男子)	E(7年女子)
<p>・ジャムボードの付箋を言葉のグループごとに分ける。 ○見出しの言葉について、生徒Cと交流し、意見を参考にしながら入力させる。</p>	<p>・ジャムボードの付箋を意味を調べながら言葉のグループごとに分ける。 ○見出しの言葉について、生徒D・生徒Eと交流し意見をまとめながら、入力させる。</p>	<p>・生徒Aと交流しながら、ジャムボードの付箋の分類をする。 ○見出しの言葉について黒板の具体例を参考にしながら自分の意見をメンバーに伝えさせる。</p>	<p>・生徒B・生徒Eの意見を聞きながら、ジャムボードの付箋の分類をする。 ○見出しの言葉について黒板の具体例に注目し、自分の意見をメンバーに伝えさせる。</p>	<p>・生徒B・生徒Dと交流しながら、ジャムボードの付箋の分類をする。 ○見出しの言葉に適切な言葉を選び、自分の意見をメンバーに伝えさせる。</p>
<p>【評価】◎言い回しや情報を分類し、言葉のグループの種類について言語化できる。(評価方法：行動観察・発言)</p>		<p>【評価】◎様々な種類の言い回しや情報に関し、その種類のもつ特性について理解を深めることができる。(評価方法：行動観察・発言)</p>		
<p>6 整理した言葉について発表をし、クラスで交流をする。 ○各グループのジャムボードの画面を電子黒板で提示しておく。</p>				
A(9年男子)	B(9年女子)	C(8年男子)	D(8年男子)	E(7年女子)
<p>○画面を見ながら、サツマイモ、玄米、ほうれん草に関する言い回しや情報について発表させる。</p>	<p>○画面を見ながら、トウガラシ、リーフレタス、パンジーに関する言い回しや情報について発表させる。</p>	<p>○9年生の発表を聞いて、感じたことを交流させる。</p>		
<p>7 整理した言葉を用いて、キャッチコピーを作成する。 ○chromebook のスライドを活用して、作成させる。 ○自分が本や雑誌から選んだ言葉以外に、メンバーが選んだ言葉も活用するようルールを決める。</p>				
A(9年男子)	B(9年女子)	C(8年男子)	D(8年男子)	E(7年女子)
<p>○自分が選んだ言葉以外も使ってキャッチコピーを作成するよう声掛けをする。</p>		<p>○自分が選んだ言葉を中心に、キャッチコピーを作成させる。 ○文法的な面で困っているときは声掛けをする。 ○イメージが湧かないときは、借りていた本や雑誌を参考にさせる。</p>		
<p>【評価】◎商品の販売にふさわしい言葉を選び、キャッチコピーを書くことができる。(評価方法：行動観察・chromebook)</p>		<p>【評価】◎商品の販売にふさわしい言葉を選び、例を参考に商品のキャッチコピーを書こうとしている。(評価方法：行動観察・chromebook)</p>		
<p>8 作ったキャッチコピーを発表し、クラスで交流する。 ○chromebook のスライドを活用して、キャッチコピーを電子黒板で提示し発表させる。 ○肯定的な声掛けをして、今後の紹介文作成に向けて自信をもたせる。 ○時間があれば、クラスメイトの発表を聞いた感想まで発表させる。</p>				
<p>9 本時の振り返りをし、次時の見通しをもたせる。 ○自分ではなかなか思いつかない言葉も、本やインターネットを通して、探して文にすることができることを確認させる。 ○分類することで、お客さんが買いたくなる言葉にも様々な種類があることが分かることを伝える。 ○今後は引き続き、選んだ言葉を用いて紹介文を書き、商品の販売の際にお客さんに渡すことを伝える。</p>				

ICT活用のポイント
 電子黒板にクロムブックの画面を映して、確認をする。

(4) 板書計画

<p>①めあて ②2チームに分かれて本や雑誌、インターネットの言葉を入力する ③似ている言葉同士で分ける ④分けた言葉のグループに名前を付けて発表する ⑤言葉を使ってキャッチコピーを作る ⑥キャッチコピーを発表する ⑦振り返りをする</p>	<p>③豆知識 ・花言葉 ④お客さんへのアドバイス ・どこに飾ると良いか ・どんな人に似合うか ・どんな料理に使えるか</p>	<p>お客さんが欲しくなる情報とは ①野菜や花の基本的なこと ・色・香り・季節・形 ②野菜や花が持っている価値 ・栄養・育てやすさ ・長持ちするかどうか</p>	<p>めあて お客さんが買いたくなるような言い回しや情報を整理して、キャッチコピーを作ってみよう。</p>	<p>十月十三日(金)</p>
--	--	---	--	-----------------